

◎指標を設定することができない場合の把握方法

①指標を設定することができない理由

ゾーン30は令和7年度末時点で74区域を整備しているが、年度によって設置数の変動があり、かつ地元住民や学校の要望により設置することが多いことから、明確な指標を出すことが困難である。

②見込まれる効果及び具体的な把握方法（データの出典含む）

令和元年度から令和4年度にゾーン30を設置した18か所について、設置前後3年間の人身事故発生件数について比較したところ、8か所で減少している。また、当該18か所における年間の平均発生件数についても、設置前の1.4件に対して、設置後は0.7件だった。

4 中間評価

(1) 必要性（現状の課題に照らした妥当性）

判定	a	理由	子供と高齢者の交通事故防止について、通学路や生活道路における歩行環境の整備は必要であり、その手段として横断歩道やゾーン30の交通規制は妥当である。
----	---	----	---

（判定基準） a：必要性が高い b：一定の必要性がある c：必要性が低い

(2) 有効性（事業目標の達成状況）

※指標設定ができない場合「b」判定以下とする。

※二つの指標を設定し、達成率100.0%未満の指標がある場合は、達成率の平均値により判定する。

判定	b	理由	横断歩道やゾーン30等の計画的な整備を推進した結果、交通事故件数の減少等、歩行者を中心とした道路利用者の安全性が向上していると認められる。
----	---	----	---

（判定基準） a：有効性が高い（達成率が100.0%以上） b：一定の有効性がある（a、c以外の場合） c：有効性が低い（達成率が80.0%未満）

(3) 効率性（限られた予算で効果を発揮するために努力した内容）

判定	a	理由	限られた予算を、「はみ出し禁止」「一時停止」等の標示事業にも割当てながら、効率とバランスを考慮しながら事業を推進した。
----	---	----	---

（判定基準） a：効率性が高い b：一定の効率性がある c：効率性が低い

(4) 総合評価

判定	B	前回結果	B
----	---	------	---

【総合評価の判定基準】

「A」：「必要性」「有効性」「効率性」の観点が全て「a」判定のもの

「B」：「A」「C」以外の判定のもの

「C」：「必要性」「有効性」「効率性」の観点が全て「c」判定のもの

5 課題と今後の対応方針

(1) 事業推進上の課題

必要な予算の確保と、限られた予算の中での効果的な標示の整備と管理

(2) 今後の対応方針

学校の統廃合、バイパスの開通及び人口の増減等、変化する交通環境に応じて規制の改廃を進めながら、真に必要な箇所の整備を推進する。

事後評価

(1) 有効性（事業目標の達成状況）

※指標設定ができない場合「b」判定以下とする。

※二つの指標を設定し、達成率100.0%未満の指標がある場合は、達成率の平均値により判定する。

判定		理由	
----	--	----	--

（判定基準） a：有効性が高い（達成率が100.0%以上） b：一定の有効性がある（a、c以外の場合） c：有効性が低い（達成率が80.0%未満）

(2) 効率性（限られた予算で効果を発揮するために努力した内容）

判定		理由	
----	--	----	--

（判定基準） a：効率性が高い b：一定の効率性がある c：効率性が低い

(3) 総合評価

判定	
----	--

【総合評価の判定基準】

「A」：「必要性」「有効性」「効率性」の観点全て「a」判定のもの

「B」：「A」「C」以外の判定のもの

「C」：「必要性」「有効性」「効率性」の観点全て「c」判定のもの

7 類似事業の企画立案に当たっての課題

--